



## 5 附属連絡会議より

特別支援教育連携推進グループでは、教員研修の再構築とシステム開発に向け、情報収集の一環として東京近郊の特別支援学級や通級等の見学に行ってきました。見学に訪れたのは都内の知的障害・肢体不自由の特別支援学級・特別支援教室6校、難聴・言語通級指導教室と弱視通級指導教室が各1校、神奈川県公立高校（インクルーシブ教育実践推進校）1校、あわせて9校の見学をさせていただきました。

6月28日（木）に開催されました5附属連絡会議では、連携推進グループより学校見学の概要を報告し、その後参加者が2グループに分かれて意見交換を行いました。

各グループは以下の観点から意見を出し合いました。

### ★Aグループ：

#### 【特別支援学校から通常校（特別支援学級・特別支援教室）にできる支援について】

卒業生が普通校（特別支援学級）へ進学することもあり、進学先でうまく授業等参加できていないなどの相談を進学先の学校から受けて、対応することもある。また、保護者が子どもに必要な支援について把握し、要求できることも大切である。そこにおいて特別支援学校からの支援ができるのではないかな。

特に普通校へ進学した際には、特別支援教育の経験がない担当教員も多いので、引き継ぎ資料がわかりやすいことは重要で、発達検査の結果などではなく、生活面や学習面など場面ごとに評価しており、それを見れば子どもの具体像がわかるようなチェックリストがあってもよい。その視点に特別支援学校の専門性が生かせるのではないかな。

### ★Bグループ：【教員研修について】

自立活動、教科の視点、困りのある子どもの授業参加の工夫など、自分たちの実践から、可能な情報としてどんな研修のコンテンツを提供できるか考えていくとよいのではないかな。地域支援等の経験から、特別支援学校の実践に基づくプログラムとして、個別の指導計画をつくる（そのための実態把握の観点）研修や自分たちが子どもをどう見て授業をつくっているか、というような研修など切り出し方はいろいろとあり、ニーズにもマッチするのではないかな。

指導の経験から、生徒たちの中で、例えば視覚的な課題が挙げられていた生徒が、視覚的な環境を整えたところ、本質的な課題が見えてきたという例もある。プログラムを体験することで、そうしたことが見えてくるということも考えられるかもしれない。

本グループでは、学校見学および見学時のインタビュー、また5附属連絡会議で出された意見などを参考にし、引き続き教員研修の再開を目指して検討を進めてまいります。

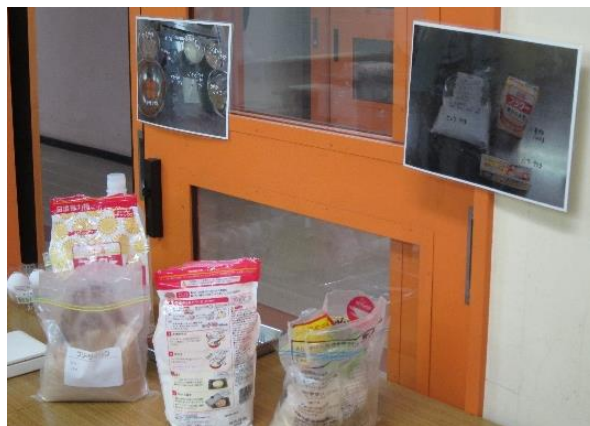
## 附属大塚特別支援学校 授業研究会

7月6日（金）、大塚特別支援学校の授業研究会に、連携推進グループの2名が参加させていただきました。大塚特別支援学校では、各学部（幼稚部、小学部、中学部、高等部）で年2回、授業研究会が行われ、今回は、小学部、高等部での第1回目の授業研究会でした。

小学部は、「生活」（1・2年）と「ことば・かず」（3・4年、5・6年）で、主に数量に焦点を当てた授業が行われていました。子ども達が主体的に友達と関わりながら、授業に取り組んでいました。高等部では、ライフキャリア授業を見学させていただきました。手順表、iPad などを見て作業手順や行程を確かめながら、自分で作業を進めていく様子がとても印象的でした。授業研究会では学部を超えた先生方が話し合い、活発に意見を交換されていました。附属大塚特別支援学校の先生方、授業研究会参加の貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。



手順表を見ながらクッキーを作る



写真を用いた視覚的支援

授業の様子



授業研究会の様子

SNE-T mini では今後も本グループの活動を随時配信します。SNE-Tとあわせて、本グループの活動をみなさまにお知りいただけますことを期待しています。